

平成29年度 ホタル観察会

開催日：平成29年6月22日
 開催場所：神奈川県横浜市栄区上郷町 瀬上市民の森
 内容：ホタルの観察
 参加メンバー：田中章研究室、ランドスケープ研究会
 復元生態学受講者
 指導教授：田中 章



横浜市栄区の瀬上の森には、「ゲンジボタル」と「ヘイケボタル」の2種が生息している。ゲンジボタルとヘイケボタルの生態は以下のとおりである。

□ホタルの生態

	ゲンジボタル <i>Luciola cruciata</i> ホタル科ゲンジボタル属 明滅回数 約20回/分		ヘイケボタル <i>Luciola lateralis</i> ホタル科ゲンジボタル属 明滅回数 約80回/分
	<生態> 5月下旬～6月中旬に成虫のホタルが地上を飛び回り、メスは交尾の後、川岸の木や石に生えたコケに500～1000の卵を産卵する。産卵後、約23日で幼虫が孵化し、幼虫はすぐに水中へと移動する。 7月上旬～3月中旬まで緩やかな清流の中でカワニナを捕食し、脱皮を繰り返しながら成長する。 3月中旬になり気温と水温が上昇すると上陸し、土の中にもぐり土まゆを作って、その中で約1月かけて黄色の蛹となる。蛹になってから数日で成虫となり、再び地上に出て、繁殖行動をとる。成虫の寿命は1週間程度である。		<生態> 6月上旬～8月中旬に成虫のホタルが地上を飛び回り、メスは交尾の後、水を含んだコケに100個前後の卵を産卵する。産卵後約20日で幼虫が孵化し、幼虫はすぐに水中へと移動する。 5月まで止水の中で、カワニナやタニシ、モノアラガイなどを捕食し、数回の脱皮を繰り返して成長する。 上陸は、5月～7月の間で行われ、土まゆを作り蛹となる。
<ゲンジボタルとヘイケボタルの見分け方> ゲンジボタルとヘイケボタルは、前胸部（赤い部分）の模様で見分けることができる。 ゲンジボタルは中央に黒い十字があり、ヘイケボタルは太くて黒い縦筋がある。また、光の明滅回数にも差がある。		<p style="text-align: center;">頭のもようちのがい(拡大図)</p>	
<オス・メスの見分け方> ホタルのオス・メスは、発光器の位置で見分けることができる。オスは、2節が発光器であり、メスは1節が発光器である。これは、ゲンジボタル、ヘイケボタル共通の見分け方である。		<p style="text-align: center;">オス メス</p>	

□ホタル観察のマナー

- ・ホタルはメスを探して光るので、強い光を嫌うので、懐中電灯などは使用しないこと
- ・カメラや携帯電話で撮影する際は、フラッシュをたかないこと
- ・大声で話さないこと
- ・ホタルや現地の植物を持ち帰らないこと
- ・植物などを踏み荒らさないためにも、道を外れないこと